

ＪＲ東日本と協力

Ｗ杯観客の安全輸送警備に当たる。態勢は１万１千人余に

日本中を興奮の渦に巻き込んだ日韓同時開催のサッカーＷ杯では、ＣＳＰもその警備に、全力をあげて取り組みました。

警備の主体は、業務提携をしている東日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ東日本）と歩調を合わせた観客輸送の安全確保で、試合開催、警備に当たった警備員は、協力会社を含めて延べ１万１千人余に上りました。

ＣＳＰ本社では、創業以来最大規模のこの警備を無事故で完遂するために、ＪＲ東日本と緊密に連絡を取りつつ準備を進めました。本社内に「警備対策本部」を設置し、連日万全の態勢で臨みました。

警備を担当したのは試合会場の最寄り駅構内をはじめ沿線各駅と、関係列車への警戒乗車等で、各試合場に向かう多数の観客のスムーズな誘導、整理に当たりました。

また、ＪＲ東日本のエリア以外の札幌・浜松支社等でも、警備先から試合日の警備強化の要請に応えました。

